



からしだね

2019年5月号
(549号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



本号の記事の主題など

主は復活された、ハレルヤ
青少年育成委員会が日曜学校の先生を紹介
社会活動委員会の支援先紹介・その4
大人の日曜学校だより 3月24日
みんなの談話室
短歌

俳句
太祖イスラエル
年間カレンダーに追加された行事予定
複写・印刷複合機が新しくなりました
合同堅信式が北摂地区大会(7/15)で

主は復活された、ハレルヤ

4月14日の受難の主日で、私たちは枝を手にしながら、エルサレムへ入られるイエスを思い起こした。続いて聖なる過ぎ越しの3日間を迎える。一年のうちで最もイエスについて思いを凝らす一週間である。18日の聖木曜日には主の晩餐の夕べのミサが挙げられ、司祭による洗足式が行われた。19日の聖金曜日は主の受難と主の愛を思い、私たちは目を伏せた。聖土曜日の午後7時から復活徹夜祭のミサがノイ神父様により、稲葉助祭様の補助のもとで、執り行われた。暗闇に沈む聖堂の中でノイ神父様の祈りの声が響く。やがてろうそくに火が灯される。毎年、私たちのろうそくは炎がゆらめいて神秘的だったが、今年はLEDのかわいい灯火となった。聖堂が明るくなると、主の復活を伝える各福音書の一節が読み上げられ、私たちは、主は復活された、と声を限りに歌った。

この喜ばしい日に、私たちは8人の仲間を得た。

洗礼の秘跡を授けられた方6名と堅信の秘跡を授けられた方2名である。この8人の方々が池田教会に心の居場所を見つけ、ますます信仰を深めていけますように。

明けて21日の復活の主日、ノイ神父様のミサ司式のもと、聖堂に満ち満ちた信徒たちは主の復活を賛美した。そして6名の子供たちが初聖体の日を迎えた。全員が小学校3年生である。一同は心を合わせて、初々しい初聖体の子供たちの霊的成長を祈った。

そのあとは恒例の復活祭のパーティが開かれた。池田II地区の皆さんのお世話で、ご馳走が並べられ、数々の家庭料理が持ち込まれて、盛大なパーティとなった。ノイ神父様、稲葉助祭様、新しい信徒を囲んで、なごやかなパーティの時間が過ぎて行った。父と子と聖霊に感謝。

復活祭とパーティーの様子

写真下：復活徹夜祭と復活祭で、日曜学校有志によるお祝い演奏が喜びを添えた。



写真上：ミサ後の復活祝賀パーティ。御受難修道女会から贈られた子羊のケーキを切り分けるノイ神父様と、それを見つめる子供たち。

青少年育成委員会が日曜学校の先生を紹介

4月7日四旬節第5主日ミサ後の「お知らせ」時間帯で、青少年育成委員会が新年度の日曜学校などの先生を紹介しました。

日曜学校の生徒は、年長の園児と1年生、初聖体、3・4年生、5・6年生、中学・高校生のクラスに分かれ、19名の先生による指導と生徒間との交わりによって成長しています。最後に、ノイ・プラザ主任司祭の祝福がありました。

支援先紹介その4

シエラレオネ*の《ともに歩む会》

この会は、シエラレオネ共和国の、グアダルーペ聖母女学園に通う園児・児童・生徒と、併設されている職業センターの生徒、合わせて約2,600人への教育支援・給食支援を行っています。

家庭で1日1食しか食事が与えられない子ども達にとって、学校で給食が食べられるのは何よりの喜びです。子どもを労働力として使いたい親達も、「給食がいただけるなら」と学校に通わせるようになりました。子ども達の健康も増進し、学習意欲も伸びてきています。教育支援の中でも給食支援は、その根幹を成すものです。

この学園は、「御聖体の宣教クララ修道会」が運営する学校で、約40年前から日本人のシスターがこの地で活躍しています。以前、池田教会にも来てくださったSr.根岸は、シエラレオネにその生涯を捧げ、また日本からの援助の道を開き、両国の間に希望の架け橋を残し、2013年に帰天されました。現在も日本人シスターが責任ある立場で活躍し、彼女たちの働きで日本からの支援も100%現地の教育に活かされています。近年は学園の卒業生が、修道女や教員となって母校で活躍し始め、教育の成果が目に見えるものとなっています。

*シエラレオネ共和国は、西アフリカの大西洋に面した小国、人口は約500万人。1991年から約10年間に内戦のあった、とても貧しい国で、約4割の子どもは小学校にも通っていません。WHOが発

表した2013年版世界保健統計によると、WHO加盟国194カ国の中で、平均寿命が一番短い国はシエラレオネで、47歳ということです。

社会活動委員会

大人の日曜学校だより

3月24日

「今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。」ルカ 13・8 - 9

今日の福音は、前半はずいぶん厳しいことが書かれている。「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

それに続くとえ話では三年も実をつけないいちじくを切り倒すように命じる主人にたいして園丁は上記のことばを言う。何とか実をつけてほしいと待つて、その上、こやしまでやったださるのは、神のわたしたちへの忍耐深い愛以外のなにものでもないだろう。この集まりに参加して下さったひとりの方は、ご自分のことをふりかえて神様は三年どころか何年も待つて下さっているとされた。わたしには、待つていて下さる神様がいます…そのように神様に絶対的な信頼をよせる信仰をもてることを願う。

前半の厳しいことばを忘れずにこの四旬節を悔い改めの時として大切に過ごしたいと思う。

研修委員会

みんなの談話室

短歌

聖体の拝領の後の静けさに
 ともし火と子どもたちが揺れる
 樽より望めば霞む遠景に
 春の午睡を誘われにけり

パウロ

俳句

忘れぬし事ひとつあり春の雷
 紺青の空をつき抜け揚雲雀

テレジア

(5ページまで続く)

太祖イスラエル

一 天使をも打ち負かす熱烈な祈り

大山

旧約聖書創世記に出てくる3人の太祖アブラム、イサク、ヤコブのうち、アブラムが一番よく知られていますね。日曜日のミサ聖書朗読にもしばしば登場。例えば息子イサクを捧げる場面とか、ソドムとゴモラの滅亡を食い止めるために、義人の数を神様と掛け合う場面です。これらは、アブラムが偉大な「信仰の人」であることを十分、分からせてくれます。それに比べてイサク、ヤコブは余り日曜日には出てきませんね。それ故、この人たちの物語は、大変新鮮な面白さがあります。

ヤコブは、一家の「親父」としての生き様が明確に現われています。アブラム、イサクにも、そのような面がありましたが、ヤコブにおいて最も鮮明に現れています。小生も、一家の主として生きるよう、神様に定められたようですから、彼の生き様がよく理解できます。“類は友を呼ぶ”類いですか。

まず彼は、意外や意外、自己の利益を計るために詐欺まがいの行為までしているのです。兄のエサウが、空腹になってヤコブの作った豆料理を所望した時、代償に、大きな利権が伴っている長子権を要求しました。兄も兄ですが、ヤコブのやり方も阿漕(あこぎ)ですね。政情不安な国で難民が出た場合、食料を求める難民から、宝石を代償に要求する商売人のようです。さらに母レベカの強い勧めがあったとはいえ、共謀して父イサクを騙し、兄エサウに属すべき天来の祝福を奪いました。

現代の現実の社会でも、人を騙したり、気の弱い、あるいは、頭の弱い人から掠め取ることが多い。小生も会社勤めで、それらしきことをした恐れがあります。また、周囲でそのようなことがなされるのを何度も見ました。その罰でしょうかね。ヤコブも人に、しばしば騙されました。

最初に彼を騙したのは伯父のラバンです。ヤコブに下の娘ラケルを妻として与える代償に七年間、ヤコブを無償で働かせました。しかし、彼に与えたのは、ヤコブが望んでいなかった姉のレアでした。ヤコブはラケルのために、さらに七年の労働を余儀なくされました。加えて労働の報酬を10度も変えられました。

神様の特別の加護があったからでしょう。とにもかくにも、ヤコブはひと財産をこしらえ、また沢山の

子供たちに恵まれて、義父になっていた伯父ラバンのもとを去ることができましたが、それまでの経緯は、もう不当な扱いを受けた不平と憤りの連続でした。

現代でも一家の親父は、粒々辛苦して家族を養い、また夫婦の老後の資金を稼ぎます。男は、生涯にわたるそのような十字架を担ううちに、弱さの故に、自分よりさらに弱い者に、重荷を押しつけることもあります。真に悲しいことです。このような長期の試練の中で、如何に潔く振る舞うかが、男の真価となります。

ヤコブは信仰生活にも倫理生活にも、父や祖父に比べて、かなり程度が低いようです。しかし、神は彼に特別の愛顧を掛けられ、彼を天の国に導かれました。神は、あの「信仰の父」アブラムの故に、ヤコブを特別に愛されたのでしよう。

日本にも「売家(うりいえ)と唐様で書く三代目」という川柳があります。唐様とは当時はやりの、中国風の華麗な書体です。今で言えば前衛的な美術の感じを与えたのでしょうか。初代が苦勞して造った家屋敷は、二代目は親の苦勞を知っているので何とか保てる。三代目となると、本業の商売はほったらかし、遊芸ばかり身を入れて遺産の維持が困難に、ついに売り出す羽目になって、親の残してくれた遺産に、遊芸で鍛えた達筆の唐様で「売家」と書く。もし三代目がしっかりしている家は、末永く繁栄するという意味もあるそうです。

太祖三代の歴史にこの川柳が当てはまるかどうか、分かりませんがね。

神様が、ちょっと頼りない三代目に活を入れた方法、それが天使を三度もヤコブに遣わされたことではないでしょうか。ヤコブに天使が現れた場面は大変有名です。

第一回目は、伯父ラバンのもとに行く途中で、石を枕に仮寝をすると、夢に天使が現れ、天まで届く階段を上り下りしている様を見ます。ここで神様の祝福が確認されます。彼はここを「天の門」と呼び、石の記念碑を立てます。

後の二回、三回目は、義父ラバンの下を離れて以降です。最後の出現は兄エサウに会いに行く途中です。彼は天使と格闘するのです。このときヤコブは、兄エサウの復讐を恐れて、家族と財産を川の彼方に渡して安全を確保し、自分は一人、もとの場所に留まりました。

(次ページに続く)

『そのとき、何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。ところが、その人はヤコブに勝てないとみて、ヤコブの腿の関節を打ったので、格闘をしているうちに腿の関節がはずれた。「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」とその人は言ったが、ヤコブは答えた。「いいえ、祝福して下さるまでは離しません。」「お前の名は何というのか」とその人が尋ね、「ヤコブです」と答えると、その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」…(中略)…ヤコブをその場で祝福した』(創世記3章14-30)

この箇所は、ヤコブがイスラエルと改名する場面でフランシスコ会訳聖書では次のような注釈を付けています。『教父たちは、この神秘的な組み討ちは明らかに心戦を象徴し、また神を打ち負かす熱心な祈りの力を象徴するものであると、一貫して解している。』

ヤコブが、明け方まで天使と格闘して、祝福を強要したことは、必死の祈りによって、神の恵みを勝ち得たことを表現しているようです。必死の祈り——天使と格闘して打ち負かすほどの必死の祈り——これこそヤコブが生涯、信仰を貫いた原動力となったのではないのでしょうか。

旧版のバルバロ訳聖書では、ヤコブが母レベカに強く勧められて、エサウの長子権を騙し取った記事の注釈で、概ね次のように述べています。

『(ヤコブが兄エサウの長子権を横取りしたことについて)ヤコブは無理な要求をするばかりでなく兄を欺きもする(27章)から、この面で咎めるべきであるが、のちにいろいろの苦しみにあつて、その罰をうける。兄の空腹を利用して長子権をうばい、兄をあざむく。その罰として、のちにラバンはかれの困苦を利用して、レアの結婚のことでかれをあざむく。ヤコブはめくらで年寄りの父をだまして重い罪を犯す。その罰として、年をとると、エジプト人に売られたヨセフのことで、自分の子どもたちからだまされて、ヨセフが死んだかのように長いあいだ泣かねばならない。

(またヤコブがエサウの祝福を欺し取ったことについて)この目的をえるために使った手段を聖書はよいとしない。本人も、それは「のろいをまねく」(26・12-13)ものだと悟っていたし、イサクも気づいたとき、それは「狡猾」と「横取り」(26・35)だと非難しヤコブも母も罰を受ける(ヤコブは長いあいだ、さすらいとなり、レベカは、子に別れて、かれをも

う見ないであろう)』。

確かにアブラハムは天晴れなる「信仰の父」でした。イサクもまた清らかな無垢さがありました。聖フランシスコ・サレジオは「太祖のうち、彼は最も貞潔であった」といっています。

しかしヤコブは、父や祖父に比べて、信仰にも品性にも見劣りして、それによって現世の生活でも大変な苦勞をしました。それを補う手段として、天使に教えられた熱心な祈り、天使も打ち負かすほどの「熱禱」に頼ったのです。

ちょうどイスラエルが、アマレク民族と闘った時に、モーセが手を挙げて祈ったのと似ていますね。

『モーセが手を上げてみると、イスラエルは勝ち、手を下ろすと、アマレクが優勢になった。モーセの腕が疲れてきたので、彼らは大石を運んできて、モーセの足もとに置き、腰かけさせた。アロンとホルは、彼の左右にいて、腕を支えた。そのようにして、日が暮れるまで、腕を上げたままであった。こうして、ヨシヤは、剣をもって、アマレクとその民を打ち破った』(出エジプト第17章11—13節)。

小生もまた、信仰はしばしばゆるみ、品性も卑しく、強欲でひがみっぽく、高慢です。天来の祝福が少ない方でしょうね。従ってヤコブのように熱心に祈るほか、生涯、信仰を全うする手段は少ないでしょう。

アブラハムはあまりに偉大。イサクは清すぎて近づくのに気後れする。だがヤコブは、いささかの世俗性もあり、同類項の印象を受ける。そんなヤコブに特別な親しみを覚えます。きっと天上から彼が助けて下さるでしょう。

主よもとに (カトリック聖歌集658番)

さすらうまに	日は暮れ
石のうへの	かりねの
夢にもなお	あめを望み
主よもとに	近づかん
主のつかいは	み空に
かようはしの	うえより
招きぬれば	いざ登りて
主よもとに	近づかん
目覚めてのち	まくらの
石を立てて	めぐみを
いよよせつに	称えつつぞ
主よもとに	近づかん

年間カレンダーに追加された行事予定

5月9、16、23、30日(木) 10:30
聖書百週間

5月10、31日(金) 14:00~16:00
福音書を学ぶ会

表紙の写真について

以前、宝塚黙想の家では「森の木彫教室」が開かれていて、信徒の方々が木彫を楽しんでいました。表紙の写真は、その木彫教室を主宰しておられた方が制作された、ピエタ像です。

複写・印刷複合機が新しくなりました

従来使用していたコニカミノルタ社製の新型(bizhub 308e)がカール記念館2階事務室に設置されました。この新機種はコピー機、スキャナー、プリンター、ファクシミア送受信機、の機能を持つ複合機です。その使い勝手は、速やかに、間違いなく、印字させ、カウンターでそのページ数を把握できるかに依ります。その点で、煩雑さを減らしてより迅速に、間違い印字ページをなくせるように、かつ、使用ページ数を容易に把握できるように改良されています。

旧の機種では、紙に複写やプリントを実行しないと用紙のサイズや向き、縮小・拡大の倍率、複数ページの場合の印刷面の片面・両面などの選択の結果(仕上がり)がわかりませんでした。本機種では、プレビュー機能が備わり、仕上がりイメージをプレビュー画面で見えるばかりか、その画面でタッチして選択したのを変更することが可能になりました。

使用に当たって疑問・質問をお持ちの方は、財務委員会にお尋ねください。

広報委員会



北摂地区大会(7/15)で 合同堅信式が行われます

来たる、7月15日(月・祝)に行われる北摂地区大会での合同堅信式に向けて、現在、おとなの堅信希望者を受け付けています。18歳以上の方で(高校生は除く)、まだ堅信の秘跡を受けておらず、希望される方は、ぜひこの機会に研修委員までお申し出ください。場所は聖母被昇天学院です。

研修委員会

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

5月30日(木)・5月31日(金)10:00~15:30
指導:山内十束神父

■ 週末黙想会

5月11日(土)17:00~5月12日(日)15:30
指導:山内十束神父



各黙想会、費用等のお問い合わせは
「宝塚黙想の家」まで。☎0797(84)3111

編集後記

木々や草花を優しく起こすように穏やかで長く感じていた2019年の春は、4月15日ノートルダム大聖堂を焼く火で一変した。

訪れたことは無いが、ディズニー映画『ノートルダムの鐘』を観て以来、ひそかに憧れを抱く場所だ。あの火災で美しいバラ窓や、パリを見下ろす小悪魔(キマイラ)の彫刻はどうなってしまうのだろう…。ニュースの画面を通じて、焼け落ちる尖塔が衝撃的に目に焼き付いた。

美しい大聖堂が焼け落ちる姿は、やはり私に十字架上のイエス様の姿を思い起こさせた。そうして、思い煩うことを止めて、只々大聖堂の「復活」を祈ることにした。

日々に忙殺され、思い煩うことばかりの私はまたこうして目を覚まし回心した。今日も明日も神様に見守られ、愛されていることを感謝したい。

Ana